

自分のよさや成長に気付き、よりよい生活を創りだす子どもの育成

— 1年生活科「わたしのかぞく にこにこだいさくせん ～ぼくので・わたしので～」の実践を通して —

高柳 麻沙未 (豊川市立八南小学校教諭)

Minding self-development for Primary 1 pupils through the topic of Family relations

Masami TAKAYANAGI (Hachinan Elementary School, Toyokawa)

1 めざす子どもの姿

本実践では、お手伝いを通して、家族の気持ちを考えることや自分の成長を実感できるようになることを目指し、次の2点を目指す子どもの姿とした、

I 活動を通して成就感や達成感を得て、さらに次の活動に挑戦していくことができる子、

II 家族の中での自分の役割を考え、それを果たすことができる子

目指す子どもの姿を具現していくために、次に示す手立てを講じた。

目指す子どもの姿 I について、

- ①「手がしていること」を単元の核に置き、自分の手で「…したい」と思う子どもの気持ちを生かした単元を構想し、活動に対する意欲を高める。
- ②子どもたちの学びの様子を捉え、子どもの思いや願いに応じて柔軟に学習を展開する。
- ③学習のねらいや学んだことが視覚的にとらえやすい板書構成をする。
- ④『にこにこ大作戦』の成果を伝え合い、それぞれが家庭で行ったことを共有し、認め合う場を設定する。
- ⑤子どもの願いを生かし主体的に取り組むことのできる『にこにこ大作戦2』を展開する。

目指す子どもの姿 II について

- ①家族の手がしていること」を調べることを通して、家族が家族のためにしていることを捉えさせる。
- ②一人一人と相談して、その子に合ったお手伝いを決める。
- ③『ふきだしカード』(大・小)・『気持ちシール』を活用して、自分がしたお手伝いに対する家族の思いに気付くことができるようにする。
- ④にこにこ大作戦カード (お手伝いカード)』を活用し、家族の気持ちを捉えさせる。

2 実践の計画

(1) 見ていきたい子どもについて

A児は、どんな活動に対しても興味をもって、意欲的に取り組むことができる。しかし、新しいことに目を引かれるため、継続して一つのことを深めていくことにやや物足りなさを感じる。アサガオを育てていたときにも、種をまくときには真剣であったのに、水をあげるのをいつも忘れてしまう姿があった。また、家族は大好きだが、家族の思いを受け止めきれず、運動会の際には家族に命令するような姿も見られた。一つのことに対して意欲的に取り組むことを通して、自分も家族の一員であり、家族に支えられているということに気付いてほしい。そして、主体的に家族のためにお手伝いをし、家族とともによりよい生活を築いていくことができるようになってほしい。

(2) 単元目標・単元構想図

《単元構想 (18時間完了)》(手立てI-①)

課題をもつ	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の手 家族の手 手形から調べよう (5)</p> <p>○『てとてとてとて』の読み聞かせを聞き、感想を交流する。(</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手はいろいろなことに使っているんだね。 ○ぼく・わたしの手がしていることを考える。② ◆赤ちゃんの写真を見て、手について考える。 ◆手形を見て、手を使ってしていることを考える。 ○家族にはどんな仕事があるのか調べる。(調べ活動 課外) ○調べてきたことを発表して、感想を交流する。① ・ぼくたちが知らない間に、たくさんの仕事をしてくれている ○ぼく・わたしの手で家族のためにできることはないか考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">家の人は、家族のために仕事をしてくれているんだな。 ぼくもやりたいな。</p> </div>	<p>◎評価 ※留意点 ☆キープポイント</p> <p>○『てとてとてとて』(浜田桂子、福音館書店、2002)の本を読んだ後、ワークシートに感想を書かせ、手についての意識をもたせる。</p> <p>☆自分の手形とその手を使ってしていることをワークシートに書かせた後、隣の子どもとペアで話し合うことによって、1年生になって、自分たちができるようになったことも多くあることに気付かせる。</p> <p>◎家族にはどんな仕事があるのかインタビューし、その内容を進んで発表することができる。</p> <p style="text-align: center;">【関・意・態】</p> <p>○自分のためにしていることと家族のためにしていることを分けてワークシートに示すことでそれぞれの手がしていることの違いに目を向けさせる。</p>
考えをもつ・学び合う	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">『家族にここに大作戦』(10)</p> <p>○どんな仕事をしようか考える。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お皿洗いを試みようかな。 ○『インタビュー会』を開こう。① ・みんなはこんなお仕事をしたんだね。もっと話したいよ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">仕事を1週間やったら、にここにになったよ。 みんなに教えたいな。</p> </div> <p>○『ここに大作戦発表会』の準備をする。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お皿洗いで使ったスポンジを見せながら発表したいな。 ○『ここに大作戦発表会』④ ◆発表会をしよう(1/4~3/4) ・ぼくはお皿洗いをしました。 家族は「うれしいよ」と言ってくれました。 ◆家族の気持ちを考えよう(4/4) ○『家族にここに大作戦2』をする。① ・〇〇さんみたいにご飯よそいをしてみたいな。 ○『ここに大作戦発表会2』をする。① ・1回目とは違うお仕事ができたよ。 ・できるようになったことが増えたよ。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1週間 続けたよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 100px; margin: 0 auto;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1週間 続けたよ</div> </div>	<p>※子どもたちが継続してお手伝いに取り組むことができるように、教師と個別に話し合う時間を作るようにするとともに、保護者にも計画を見てもらおうにする。</p> <p>※子どもたちが家族の言葉を捉えられるように、作戦の時に言ってもらった言葉を『ふきだしカード』に書くようにする。</p> <p>☆グループで発表の練習をする時間を設け、お互いの発表についてアドバイスをしあえるようにする。</p> <p>※子どもたちが発表を聞きやすいように机を移動させ、前のほうで見られるように場所の設定をする。</p> <p>◎自分のしたことを考え、家族がにここにになったことを友達に分かりやすく伝えようとしている。</p> <p style="text-align: center;">【思・表】</p> <p>※家族に言ってもらった言葉を『ふきだしカード』にまとめ、『気持ちシール』を貼ることにによって、家族の気持ちに気付くことができるようにする。</p> <p>◎『ここに大作戦』にがんばって取り組むことができた自分の姿に気付き、次の活動の意欲を高めることができる。</p> <p style="text-align: center;">【気付き】</p>
振り返る	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">『てとてとてとてブック』をつくらう(3)</p> <p>○成長した自分の手形をとる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの手は、ご飯よそいもお皿洗いもできるようになったよ。 ○家族からの手紙を読み、家族に手紙を書く。① ・これからわたしにできることはお手伝いしたいよ。 ○『てとてとてとてブック』を完成させる。① ・家族がにここにになってうれしいよ。今まで頑張ったんだね。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">いろいろなことができるようになってうれしいな。 家族もにここにになってうれしいよ。</p> </div>	<p>※はじめと同じように手形を取り、自分のできるようになったことを周りに書かせるようにして、自分の成長に気付くことができるようにする。</p> <p>※保護者の方にお願いで、子どもたちに手紙を書いてもらい、今までの活動を振り返られるようにする。</p> <p>※今までの学習が形として残るようにワークシートやカードなどをまとめて『てとてとてとてブック』を作る。</p>

3 実践の様子

(1) ぼく・わたしの手と家族の手

① ぼく・わたしの手がしていること

ア てとてとてとて (第1時)

単元の導入で『てとてとてとて (浜田桂子、福音館書店、2002)』(資料1)の読み聞かせを行った。読後、自分の手がしていることを考えると、子どもたちからは「ご飯を食べること」「鉛筆を使うこと」などの意見が出された。また、「泣いている人をあたたかくする」や「赤ちゃんを抱っこすること」など他者とのかかわりの中で手がしていることについての意見も出された。これらの意見を受け、絵本の最後のページ『てはこころがでたりはいたりするところなのかもしれない』という文章を提示し、手から出ている気持ちについて考えた。

イ つながっているよ! ~手が伝える気持ち~ (第2時)

そこで、他者とのつながりやかかわりを通して手できることがたくさん増えてきたことを捉えさせるために、第2・3時の学習を通して赤ちゃんの手とお母さんの手のつながりについて考えることにした。授業の初めに、赤ちゃんがお母さんに抱っこされている写真を見て、赤ちゃんの手とお母さんの手からどんな気持ちが出ているのかみんなで話し合った。第2時の板書は資料2に示すとおりである。



【資料2 第2時 板書】

(板書構成の意図 (手立てI-③))

- ア 写真を大きく示し、子どもたちが赤ちゃんの手について想像しやすいようにした。
- イ 矢印を意識的に使うことで、変化が捉えられるようにした。
- ウ お母さんと赤ちゃんのしていること、気持ちを対照的に板書に表すことで、気持ちのつながりに気付くことができるようにした。
- エ 赤ちゃんの手の写真を板書の中に大きく入れておくことで、自分の手と比べて、自分の手の成長に気付くことができるようにした。

ウ ぼく・わたしの手（第3時）

第2時をうけ、自分の手の手形をとり、今の自分の手がしていることを書きだした。赤ちゃんと母親の手のつながりや植物と手のかかわりについて触れてきたが、子どもたちが書いたものを見ると、「おりがみをする」、「服を着る」など自分ですることが多く、他者とかかわったり他の人のために何かをしたりしている手の働きはあまり書かれていなかった。

② 家族の手がしていること

ア ぼくの手とはちがうよ！ A児の変化（第4時）

そこで、手と他者とのつながりを捉えさせたいと考え、家族にインタビューして、家族の手がしていることを調べてくることにした（手立てⅡ-①）。調べた結果をペアで発表した後、全体で話し合った。その時の板書が資料3である。

【資料3 板書】

（板書構成の意図（手立てⅡ-③））

ア 前時に考えた、自分の手を使ってしていることを隣に示しておくことで、自分の手がしていることと家族の手がしていることの違いに気付くことができるようにした。

イ 授業を進めていくにつれて、「先生、黒板に何か分けて書いているでしょ？」と子どもたちから黒板に着目したつぶやきが聞かれた。

子どもたちは板書を見て、一目で家族の手は自分を含めた家族のためにしていることが多いことに気付いた。そこで、調べてきたワークシートに書いてある「家族の手がしていること」の中で、家族のためにしていることに、にこにこマークのシールを貼った。A児の家族の手がしていることを調べたワークシートには、27個の家族の手がしていることが書かれており、そのうち21個が家族が家族のためにしていることであった。この授業の振り返りには、A児は「たくさんシールが貼れた」と書いた。家族が家族のためにしていることがたくさんあることには気付いたが、だから自分が何かしたいという思いは記述されていなかった。振り返りを発表するときには、「家族がにこにこすることがたくさんありました」「もっとおうちの人を助けたいと思います」「お母さんがいっぱい家族のことを思っていると思います」などの意見が出された。A児はこの意見をうなずきながら聞いており、この時の友達の意見から、家族の思いに気持ちをめぐらすことができたようだった。子どもたちはこの活動を通して、手と周りの人たちとのつながりを意識するようになった。

イ 思いや願いをもち始めた子どもたち（第5時）

そこで、『とこちゃんのしゅっちょうひきうけます（かわかみたかこ、フレーベル館、2004）』

の読み聞かせを行った。この絵本は、主人公のとこちゃんがおひさまえんのみんなの髪の毛を切ってあげ、とこちゃんのおかげで、みんながにこにこになるというお話である。振り返りには、「お母さんがにこにこする方法があるといいです」「今日の勉強で家族のためになることをもっと知りたい

です」などの記述が見られた。資料4のA児の発言に見られるように（下線部）、A児は「家族をにこにこにすること＝お手伝いすること」と結び付けて、お手伝いを捉えることができた。家族の思いをなかなか受け止められないA児が、大きく変わっていかうとする場面であった。それらを紹介することで、みんなで家族を笑顔にする『家族ににこにこ大作戦』に取り組むことにした。

(2) 『家族ににこにこ大作戦』～ぼく・わたしの手を使って家族をにこにこにしよう～

① お手伝いを決めよう（第6時）

まず、家族をにこにこにするために、思い付く作戦を書き出した。そしてそれをペアで伝え合った後に一つに決めていくという手順を取ることにした。その後教師と一対一で面談をして、お手伝いがその子に合ったものになるように個別指導をした（手立てⅡ-②）。

② 『家族ににこにこ大作戦』

ア 『家族ににこにこ大作戦』開始！

作戦を行うにあたって、家族の表情が捉えられるように右のようなカードを活用した（資料5）（手立てⅡ-④）。作戦を始めると、子どもたちの中には、毎日やったことを教師に報告する姿が見られ、その姿から、他の子どもの作戦の様子が気になっている様子がうかがえたため、中間報告会として、『家族ににこにこ大作戦』インタビュー会を行うことにした。

イ 『家族ににこにこ大作戦』インタビュー会（第7時）（手立てⅠ-②）

インタビュー会は、班の代表がマイクを持って、右のような質問をするという形で、行

った。「おうちの人はなんて言ってくれましたか」という質問に答えられない子どもが意外に多く、家族の気持ちを言葉にして表すことの難しさを感じた。そこでその日の『にこにこ大作戦』をした後に、家族がなんて言ってくれたのかを『ふきだしカード』（小）に書き（手立てⅡ-③）、お家の人の言葉をはっきりと捉えられるようにした（資料7）。

【資料4 授業記録】

T:にこにこになったとき、みんなはどんな気持ちになったでしょうか。

C:うれしかった気持ちです。

C:楽しい気持ちです。

…中略

T:みんなもとこちゃんみたいに家族をにこにこにできないかな。

A児:できる。お手伝いしたらいいじゃん。

【資料5 家族ににこにこ大作戦カード】

	2にち	3にち	4にち	5にち	6にち	7にち	Rにち	おうちのひとから
おしごとほ できましたか	😊	😊	😊	😊	😊	😊	😊	おうちの人から お話を聞いて お話を聞いて
おうちのひとの ひょうじょう	😊	😊	😊	😊	😊	😊	😊	おうちの人から お話を聞いて お話を聞いて
おうちのひとの しるし	🐰	🐰	🐰	🐰	🐰	🐰	🐰	おうちの人から お話を聞いて お話を聞いて
せんせいの しるし	🐱	🐱	🐱	🐱	🐱	🐱	🐱	おうちの人から お話を聞いて お話を聞いて

【資料6 インタビュー項目】

- 1 お名前はなんですか。
- 2 どんなお手伝いをしましたか。
- 3 家族は何て言ってくれましたか。

【資料7 『ふきだしカード』（小）】

いつもおてつだい
してくれてうれしいよ
これからもおてつだいを
がんばってねよ

おうちの人の言葉を聞いて、自分で書いたり、おうちの人の書いてもらったりした。文字にすることで子どもたちが家族の気持ちを捉えられるようにした。

③ がんばったよ！にこにこ大作戦！！

ア 『にこにこ大作戦発表会』（手立てⅠ-④）

1週間の『にこにこ大作戦』終了後、インタビュー方式の発表会を行った。今回は、インタビューの内容を資料のように6項目に増やし、自分の気持ちを言葉に表す場面を設定した。発表では、自分がしたお手伝いを伝えたくてたまらない様子が見られた。

イ 家族の気持ちを考えよう（第13時）

（ア）授業の計画（資料9）

発表会后、お手伝いをして家族に働きかけることで、家族がどんな思いをもったのか子どもたちに捉えさせたいと願い、家族の気持ちを考える授業を構想した。

（イ）家族の気持ちを考えよう

a) 家族の言ってくれた言葉

まず、授業のめあてを子どもたちと確認し、自分たちの手でしたお手伝いで家族がにこになった時、家族がどんなことを言ってくれたのかを出し合った。それらの言葉を大きく4つに分類し、それを4つの色のハートで表した（資料10）。

b) 『気持ちシール』を使って

この4種類の『気持ちシール』を自分の家族が言ってくれた言葉を書いた『ふきだしカード』(大)に貼る活動をグループで行った(手立てⅡ-③)。貼るシールは一人3枚にした。子どもたちは机の真ん中に家族からの言葉が書かれた『ふきだしカード』(大)を置き、頭を寄せ合って、どんな気持ちが込められているか考えていた。また、『きもちよかったよ』など4つの言葉に分類されない吹き出しをもった子には、「どのシールが貼れるのかな？」と考えている様子であったので、5つ目のシールを提示し「この『気持ちシール』には、自分で考えた家族の気持ちを書きましょう」と伝えた。

c) 『気持ちシール』がいっぱい

この授業の板書では、中心となる授業の活動を中央に、シールを貼った『ふきだしカード』(大)を左右に配置し、全体の構造が一目でわかるようにした。また、色のハートを使うことで、家族の気持ちを視覚的に捉えられるようにした(資料11)(手立てⅠ-③)。

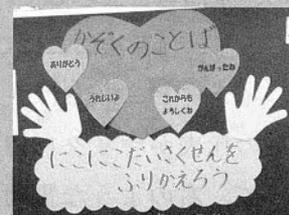
【資料8 インタビュー項目】

- 1 お名前はなんですか。
- 2 どんなお手伝いをしましたか。
- 3 どういう風にお仕事をしたのですか。
- 4 家族は何て言ってくれましたか。
- 5 どう思いましたか。
- 6 家族はにこにこになりましたか。

【資料9 授業の流れ】

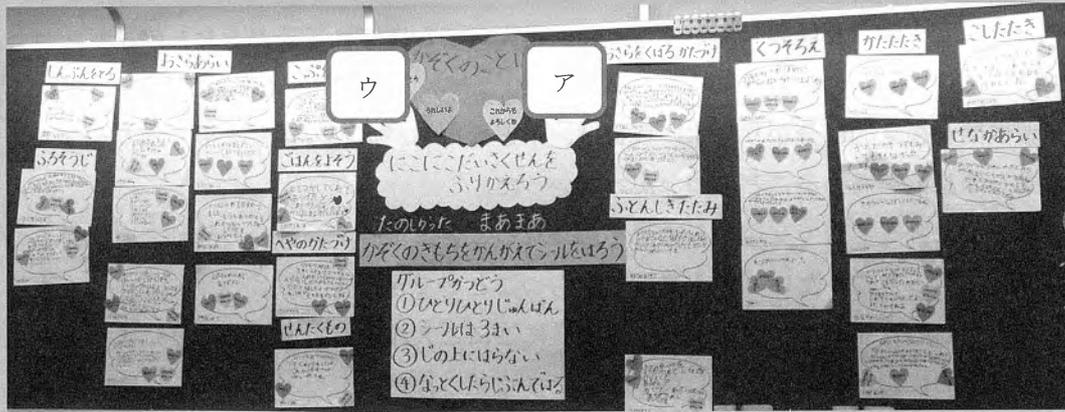
- 1 前時まで行ったにこにこ大作戦発表会の学習を想起する。『ふきだしカード』(大)に家族が言ってくれた言葉をかいた
- 2 前時に書いた『ふきだしカード』(大)を見ながら家族が言ってくれた言葉を思い出し、発表する。
(ありがとう、これからもよろしくね、うれしいよ、がんばったね)
- 3 グループ活動を通して、それぞれの『ふきだしカード』(大)に書かれた言葉に込められている家族の気持ちを考え、『ふきだしカード』(大)に『気持ちシール』を貼る。
- 4 シールの貼られた全員のワークシートを黒板に貼り、『ふきだしカード』(大)気付いたことや思ったことを発表する。
- 5 振り返りをする。

【資料10 4つのハート】



4つのハートを使って、「ありがとう」、「うれしいよ」、「これからもよろしくね」、「がんばったね」という言葉を表した。

【資料1 1 板書について】



〈板書構成の工夫（手立てI-③）〉

- ア 手を黒板に置くことによって、単元が『手』というキーワードでつながっているというイメージを子どもに再確認させた。
- イ 最初は、シールの貼っていない吹き出しだったが、グループ活動の後、ハートがいっぱい貼られ、『家族にこにこ大作戦』の成功を子どもたちを感じさせることができた。
- ウ 活動が温かい気持ちでできるように、ハートの形をいろいろなところに使用した。

黒板に貼られた吹き出しを見て、気付いたことを出し合うと、「ハートがいっぱいになって嬉しいと思った」「家族が喜んでくれた」などの意見が出た。振り返りには、さらに活動を続けたいという子どもたちの思いがたくさん書かれていた。

ウ もっとやりたいな

『家族にこにこ大作戦』で、家族がどんな気持ちになったのか、それを捉える学習（第13時）を行うことによって子どもたちは、作戦の成果を実感することができ、子どもたちのもっとやってみたいという思いを喚起することへとつながった。2回目の作戦をやろうという話が子どもたちの中で生まれ、『家族にこにこ大作戦2』に取り組むことにした（手立てI-⑤）が、その詳細については、紙面の都合上、割愛する。

単元の最後に家族から手紙をもらい、それに対して返事を書いた（資料1 2）。

【資料1 2 家族からの手紙と家族への手紙】

【家族からA児に宛てた手紙（原文はひらがな）】

〇〇（A児）ちゃんへ
 にこにこ大作戦で自分が決めた目標をちゃんと達成できて、とてもえらかったね。にこにこ大作戦が終わったあとも、自分からいろんなお手伝いに挑戦して、洗濯物も上手にたためるようになってすごいよ！！
 〇〇（妹）や〇〇（弟）のめんどくさくもよくみてくれてたくましいお姉ちゃんになってくれてママも嬉しいし、本当にありがとうね。これからもママが大変な時や困ったときは、お手伝いよろしくお願ひします。〇
 〇（A児）ちゃんだいすきだよー！！

【A児が書いた手紙】

ママへ
 こんなにながいおてがみありがとう。〇〇（A児）もママにほめられるとすごいうれしいよ。これからもっともおてつだいしてあげるね。おてつだいしてってゆわなくてもしてあげるよ。

4 実践の成果と課題

(1) 目指す子どもの姿Ⅰについて

- 手を核にして学習を展開していくことで、単元が進むにつれて子どもたちの家族を自分の手でにこにこにしたいという気持ちが高まった。
- 学習展開が視覚的に分かりやすい板書は、子どもたちが本時の学習を振り返りやすく、次の活動への意欲を高めることにつながっていった。
- 成果を伝え合う学習で友達から感想を言われることによって、自分の活動に自信をもつことができ、もっとやりたいという気持ちをもつことができた。
- 子どもたちの自発的な学習によって『家族ににこにこ大作戦2』をすることによって、生活の中で日常的にお手伝いが定着した子どもが多く見られた。

(2) 目指す子どもの姿Ⅱについて

- 『ふきだしカード』(大・小)や『お手伝いカード』は、家族の気持ちを捉えることに大変有効であり、気持ちを考えることで自分の役割に気付くことができた。
- 家族に働きかけることと、それに対する家族の反応を捉えさせることが大切であることを感じた。そうすることで、単元が終わった後も家族のために動こうとする気持ちをもつことができるようになった。
- 家族の気持ちを捉えるためには、家族の協力が必要だったのだが、家庭によって文章量やカードの記入に差があった。さらにきめ細やかな個に応じた配慮が必要であった。

5 おわりに

単元終了後には、今までの授業で使ったワークシートやお手伝いカード、感想などをまとめて、『てとてとてとてブック』を一人一人が作った(資料13)。この本を作るために、今まで使ったものを整理しているときに、子どもから「こんなに勉強したんだね」「あつという間だった」という声が聞こえた。この単元を通して

生活科がすきになったという子どもも多く、自分たちの活動に家族から声を掛けてもらったこと、友達に褒めてもらったことがうれしかったのではないかと感じた。おうちの方からも「今まで、『お手伝いして』というと、『いや』と言われていたのですが、この勉強をしてから、自分からお手伝いしてくれるようになりました。」など、たくさんの方から子どもたちの変化について教えていただき、この単元の成果を感じることができた。

最後にA児が単元を振り返って、右のように綴った(資料14)。今まで家族にも友達にも命令するような口調で接することがあったA児が、家族の気持ちに気付き、自分から家族のためにできることを考えて実行する姿に成長を感じた。

【資料13 『てとてとてとてブック』】



【資料14 A児の振り返り】

わたしは、にこにこだいさくせんをやってよかったとおもいます。なぜかとゆうと、ママのきもちがわかるからです。〇〇(A児)もにこにこだいさくせんママがこんなにがんばっていることをしりました。ママはこんなにがんばっているなんてすごいとおもいました。わたしは、にこにこだいさくせんのでつだい、はじめはむずかしかったけど、だんだんかんたんになってきました。